

高収益型畜産体制構築事業[新規]

【69（一）百万円】

対策のポイント

地域ぐるみで収益力を向上させる新たな取組の実証や、このような取組の全国的な普及活動等を支援します。

<背景／課題>

- ・我が国畜産・酪農では、農家戸数や飼養頭数の減少など生産基盤の弱体化が懸念されており、高収益型の畜産・酪農を推進していくためには、生産コストの低減・飼養規模の拡大とともに、畜産物の付加価値の向上や新たな需要創出等を進める必要があります。
- ・今後、畜産農家をはじめとして、地域に存在する各種支援組織（コントラクター、TMRセンター、キャトルステーション等）や関連産業等の関係者（乳業、食肉センター等）が有機的に連携・結集し、地域ぐるみで収益力向上を図ることが重要であり、このような地域ぐるみの体制（畜産クラスター）の構築が望まれます。

政策目標

「食料・農業・農村基本計画」において設定された需要に応じた畜産物の生産数量目標及び飼料自給率目標を達成

<主な内容>

1. 畜産クラスターの実証に向けた支援 43（一）百万円
地域の特徴を活かして収益力を向上させる新たな取組を実証するために必要な調査
・分析や実証設備等に要する経費を支援します。

（ 補助率：定額
事業実施主体：民間団体 ）

2. 畜産クラスターの全国的な推進 25（一）百万円
全国的な推進を図るため、方向性や課題の抽出及び検討、国内外の優良事例の調査
・分析、普及活動等の取組を支援します。

（ 補助率：定額
事業実施主体：民間団体 ）

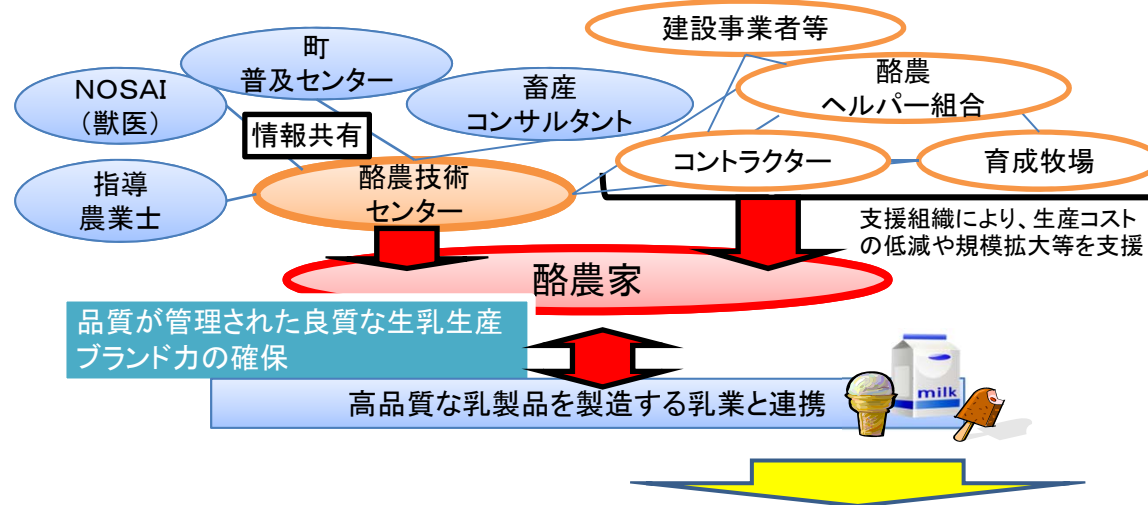
[お問い合わせ先：生産局畜産企画課 （03-3501-1083）]

高収益型畜産体制の構築

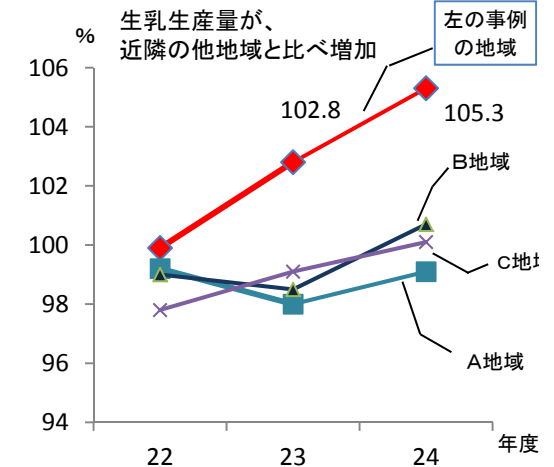
高収益型畜産体制構築事業 69百万円(-)

- 農家戸数や飼養頭数の減少など畜産・酪農の生産基盤の弱体化が懸念されている中、足腰の強い高収益型の畜産・酪農を創出していくことが課題。
- このため、畜産農家をはじめ、地域に存在する各関係者が有機的に連携・結集し、地域ぐるみで収益力向上を図る体制(畜産クラスター)を各地に展開し、コストの削減や付加価値の向上・需要の創出を目指す取組を支援。

<畜産クラスターの優良事例>



<生乳生産状況(対前年比)>



このような事例を全国各地の畜産・酪農で展開するため

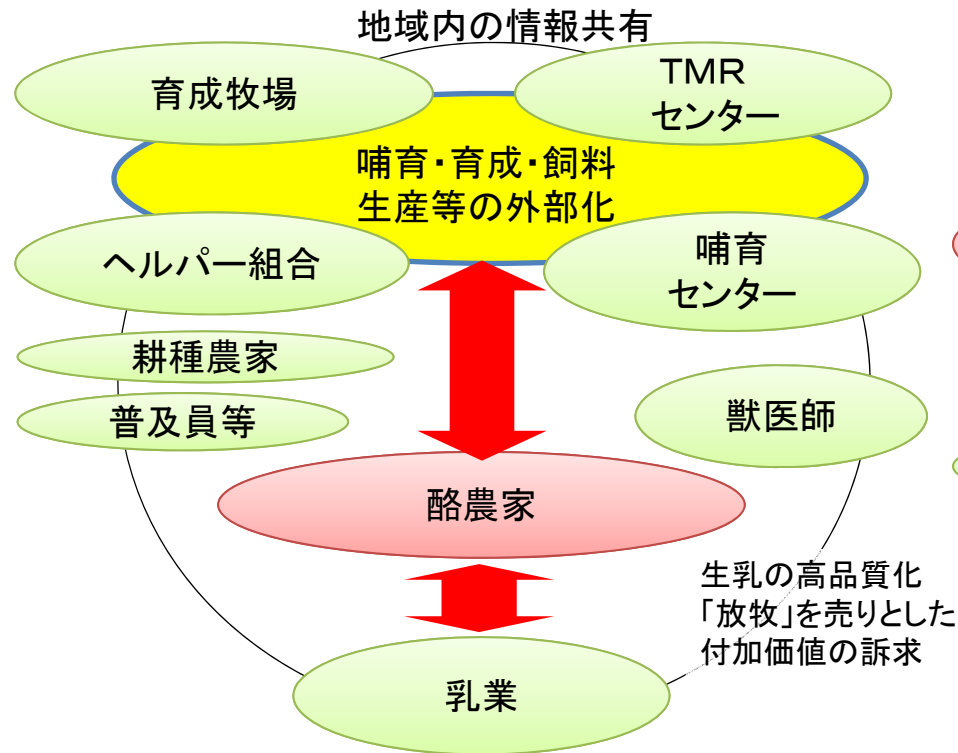
- 放牧(生産コストの低減、高付加価値化)
- 旨味成分に着目した食肉生産
- 情報共有と指導体制の再構築
- キャトルステーションを活用した地域内一貫経営
- 地元企業等の畜産・酪農関係への参入促進
- 地域資源を利用した飼料費の低減と飼料自給率の向上
- 衛生管理の強化、栄養機能の向上等に関する取組の推進
- 環境対策の強化と耕畜連携による堆肥等の有効活用等の新たな取組の実証を支援。



地域ぐるみで高収益型の畜産体制を構築

実証テーマの具体例

<「放牧」のイメージ>



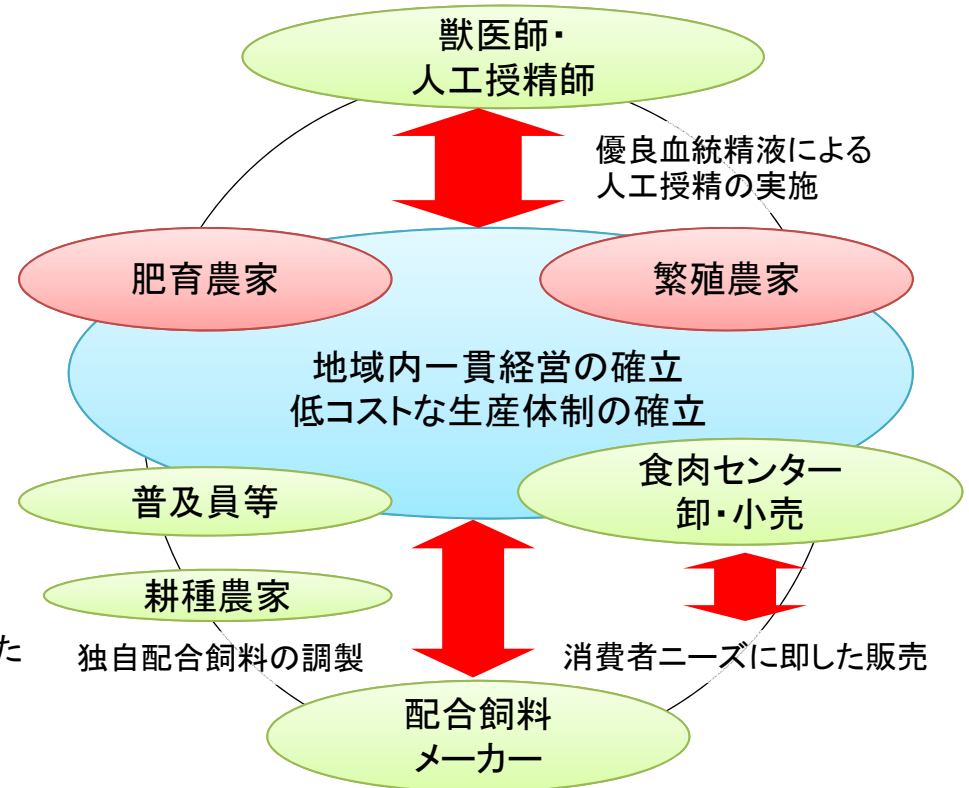
(目指す方向の例)

- 地域ぐるみで放牧を推進し、コスト低減、「放牧」を売りとした付加価値の訴求。
- 各関係者が「目指す方向」を共有し、地域ぐるみで取組。
- 地域における情報の共有化等による生乳の高品質化。
- 飼料生産や育成等の作業の外部化を推進。

(実証内容)

- 放牧によるコストの低減効果を示し、地域内の酪農家の理解醸成。
- 放牧のため、採草地の植生を放牧に適した植生へ変更。等

<「旨味成分に着目した食肉生産」のイメージ>



(目指す方向の例)

- 脂肪交雑にこだわる従来の方法から、旨味成分が多く、低コストな生産方法に転換。
- 地域内の繁殖農家・肥育農家の理解醸成を図り、地域内一貫肥育体制を確立。
- 各関係者が「目指す方向」を共有し、地域ぐるみで取組。

(実証内容)

- 転換によるコストの低減効果を検証し、地域内農家へ理解醸成。
- 旨味成分含有量を高める配合飼料の調製。等